

芝山の祭り

その七.

おもたる 面足神社 秋の例大祭

秋は各地で多くの祭りが行われる季節です。月号の「芝山の祭り」は、小池地区の鎮守・面足神社で行われた秋の例大祭をご紹介します。

面足神社の歴史

小池地区の産土神・面足神社は、旧二川村の村社でした。村社は明治時代に整備された神社の階級で、旧二川村では面足神社の他に、大台地区の宮門神社、下吹入地区の隣高神社が村社に格付けされていました。

芝山町史によると、面足神社の祭神は面足尊と惶根尊で、夫



玉串を供える総代・区長の皆さん

婦神とされています。また、次の話が神社の伝承として伝わっています。

日本武尊が東征の際、小池郷に至りました。そのとき村人が厚遇してくれたことから、日本武尊は喜んで懐中から2つの小石を取り出し「相手の賊が近くにいるときは天叢雲剣で切り裂け、遠いときはこの石をつぶてにして降伏させた」といって村人に与えました。そこで以後この石をご神体として祭っているということなのです。

謎の神楽面

面足神社の秋の例大祭は10月17日に行われました。小池各区と芝山台の区長と総代が集まり、宮司の太鼓とともに神事が始まります。皆で玉串を供え、その後、拜殿で昼食を食べながらの直会を行います。

現在ではこのような流れで行



拜殿で保管されている12の面

われる秋の例大祭。今年は平日で参加者も少なかったというのですが、かつては多くの人を集める祭りだったようです。

拜殿に置かれていた12の面。以前、面足神社の秋の例大祭では、この面を用いて神楽を演じていたそうです。トラックに綱をつけて引き回し、その上で神楽を上演し、向野地区の住民がお囃子を演奏していたということです。しかし、50年以上前に神楽の上演はなくなってしまうと、総代の皆さんも小さい時に見た記憶があるだけで、詳しくは分からないそうです。

かつては大勢を楽しませていた神楽面。今では静かに小池地区の平穏を見守っています。

あとがき

◆面足神社秋の例大祭を取材しました。面があることは以前から聞いていましたが、実際に見たのは初めて。手にとってみると、これを付けたような神楽を舞っていたのか、想像が膨らみました。神楽の写真や情報をお持ちの方は総務課企画政策係までご連絡ください。◆11月某日、私の地元で祭りが行われました。私が小さい時から変わらない雰囲気。ただひとつ変わったのは、祭りに見に来る子どもが減ったこと。以前は、祭り当日は小学校が早く終わり、子どもは急いで祭りを見に行きましたが、今では小学校もなくなっていました。将来祭りが廃止になり、いずれ覚えている人もいなくなる時がくるかもしれないと思うと、少し寂しい気持ちになりました。(Y)

◆今月の4日〜10日は16ページでもお知らせしたとおり、「人権週間」です。少しでも困りごとがありましたら、人権擁護委員の皆さんにご相談ください。◆先日、岩手県へ旅行に行ってきた。早朝に到着したのですが、あまりの寒さにびっくり。やはり関東とは違いました。盛岡駅から電車で平泉駅まで行き、平泉からはレンタサイクルで移動。晴れていたため、風も心地よく最高でした。そして中尊寺や毛越寺など各名所を巡りました。紅葉は終わっているかと諦めていましたが、まだ赤や黄色に色づく木々が多く残っており、素晴らしい景色に出会ったことができました。◆今年も大変お世話になりました。来年も皆さまの素敵な笑顔とお会いできますように。(A)